

眼瞼のトラブルとその診療

2021年8月1日(日)

8:00～9:00

第3会場(国立京都国際会館 1F ニューホール)



川田 暁 先生

近畿大学名誉教授



矢上 晶子 先生 藤田医科大学ばんだね病院 総合アレルギー科 教授

美容診療に携わる皮膚科医に伝えたい、
眼瞼の皮膚トラブルとその診療(目の周りのケア)

コロナ禍においてマスクの装着が日常化する中、眼瞼およびその周囲は人の印象を決める大きな役割を担う。アイメイクやまつ毛のエクステンションなどはマスク着用で力を入れているメイクアップであるが、それらにより眼瞼およびその周囲の皮膚にトラブルが起こり皮膚科を受診する患者は少なくない。また、適切な治療が行われなければ湿疹病変が長期に亘り皮膚の苔癬化や色素沈着が誘発されると整容的に問題となる。

眼瞼の皮膚トラブルは主にアレルギー性接触皮膚炎であり、アイシャドウや口紅に含まれるロジン、化粧品の基剤としてクリーム、乳液に含まれるラノリン、さらにはまつ毛のビューラーによる金属アレルギーやゴムなどがその原因成分としてよく知ら

れている。また、まつ毛のエクステンションによる皮膚障害事例も眼瞼の皮膚トラブルの原因の一つである。まつ毛エクステンションによるアレルギー性接触皮膚炎の主な原因物質はシアノアクリレートであり、これらは家庭用、工業用、医療用に汎用されている瞬間接着剤と同類の物質である。眼瞼の皮膚トラブルに遭遇した際は、アレルギー性接触皮膚炎の原因物質と共に、眼瞼における軟膏、保湿剤の選択、スキンケア法について精通し、患者指導を行うことが大切である。本講演では、今、知っておきたい眼瞼周囲における皮膚トラブルの原因物質やその検査法、さらに目の周りのケアについて、美容に携わる先生方の臨床の現場で役立つ情報をわかりやすく解説したい。



有田 玲子 先生 慶應義塾大学 眼科 非常勤講師 伊藤医院 眼科

輝く瞳はまぶたから
～リッドハイジーンとIPLはドライアイの救世主?!～

マイボーム腺、ご存知ですか？ まぶたにあって、涙の脂分を分泌している皮脂腺です。実は、ドライアイの8割以上は、涙の水不足ではなく、脂不足が原因でドライアイになっていることがわかりました。この脂不足のドライアイを「マイボーム腺機能不全：Meibomian Gland Dysfunction, MGD」といい、古くは眼瞼炎として知られていました。MGDは「まぶたと涙」の両方にまたがった疾患なのでまぶた側と涙側の両方から治療

することが重要です。まぶた側からの治療として「リッドハイジーン」と「抗炎症」が有用です。このセミナーでは、MGD治療ガイドラインのファーストチョイスである「リッドハイジーン」と、最先端のMGD治療として国際的に注目を浴びているIntense Pulsed Light (IPL)の有用性についてご紹介する予定です。「輝く瞳はまぶたから」 そんな時代の幕開けです。



1996年	藤田保健衛生大学医学部卒業
2002年	藤田保健衛生大学医学部大学院 医学研究科 博士課程卒業
2007年	国立成育医療センター研究所 免疫アレルギー研究部へ国内留学（斎藤博久部長）
2017年	藤田保健衛生大学 医学部総合アレルギー科 教授
2021年	藤田医科大学総合アレルギーセンター センター長 ※2018年 10月校名変更 藤田医科大学

有田 玲子 先生

1994年	京都府立医科大学卒業
2001年	京都府立医科大学大学院博士課程修了
2002年	慶應義塾大学眼科助手
2005年	伊藤医院眼科副院長
2007年	東京大学眼科臨床研究員
2011年	慶應義塾大学眼科講師（非常勤）
2012年	LIME研究会代表
2021年	日本角膜学会評議員